

日本人小児における Thymus and Activation-Regulated Chemokine と川崎病臨床指標との関連についての研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年2月4日～2030年3月31日

〔研究課題〕

日本人小児における Thymus and Activation-Regulated Chemokine と川崎病臨床指標との関連：単施設後ろ向き研究

〔研究目的〕

川崎病のお子さんで、急性期の疾患活動性や治療反応予測マーカーとして Thymus and Activation-Regulated Chemokine(TARC)が有用かを確認します。

〔研究意義〕

TARC を川崎病における疾患活動性のモニタリング指標として使用することで、KD において迅速な治療と冠動脈合併症を予測して、適切な治療を行えるものと考えております。

〔対象・研究方法〕

2014年1月1日から2025年12月31日までに帝京大学医学部附属病院小児科で治療を行った川崎病または不全型川崎病生後6か月以上の入院患者さんを対象とします。対象となる患者さんは約130名を予想しています。診療録から個人情報を削除して個人が特定されないように対応し、年齢、性別、基礎疾患の有無、川崎病の急性期治療前後の血清TARC値、血清IgE値、大量免疫グロブリン療法不応の有無、冠動脈病変の有無、川崎病症状の再燃の有無、再発の有無などの医学情報を電子データとして記録します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部小児科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

提供された診療情報(研究に関するデータ)は、個人が特定されないように対応し、記号化した番号により管理することで、個人情報が外部に漏れることは一切ありません。本研究終了後も報告された日から5年を経過した日又は最終結果が公表されたことが報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間まで小児科学講座でデータは保管します。研究終了後にはデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管の後に廃棄します。

対象となる患者さん(お子様の保護者様)で、検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：友利伸也

研究分担者：三牧正和 主任教授

高橋和浩 准教授

小山隆之 非常勤医師

友利伸也 助手/大学院生

所属：帝京大学医学部小児科学講座、医学部附属病院、大学院医学研究科

住所：東京都板橋区加賀2-11-1

TEL：03-3964-4090(代表)